

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

シーガーPE X8 1.5号

★今回2人がリールに巻いてきたのは同社PEシリーズで最も伸びの少ないグランドマックスPEを使用した8本組の高強度&高感度PEライン。「シーガーPE X8」1.5号。コストパフォーマンスに優れている点もうれしい。

◎シーガーPE X8=0.4~6号まで12アイテムを用意。号数により150~400mまで各種。価格はオープン

シーガーグランドマックスFX 60m巻 6号

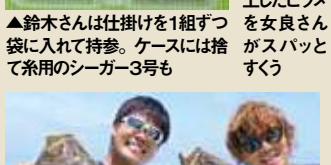


★2人が選んだハリスはしなやかで結節強度、感度、耐摩耗性に優れた高品質の「シーガーグランドマックスFX」。「銚子~九十九里エリアは魚礁周りを狙うことが多いのでとにかく強さが大事です。グランドマックスFXなら安心して使うことができます」と鈴木さん。「夏場は水温が高くイワシが弱りやすいので、イワシの泳ぎを妨げないようにしなやかなFXを使っています」と女良さん。◎シーガーグランドマックスFX60m巻=0.3~10号まで19アイテムを用意。価格は3200~6000円(税別)



▲こまめにタナを取り直しつつ、誘いを入れる鈴木さん。潮が動かないときは効果的

▶海面に浮上したヒラメを女良さんがスパッとすく



▲沖揚がり直前にダブルヒット。2人仲よく10枚ずつ釣り上げた



◎同船した皆さんも全員ヒラメを釣り上げた



後半からは魚礁周りに移動。このあたりから少しずつ潮が動き出し、まず同船者が2.5キロを上げる。そして納竿まで1時間足らずと迫った11時ごろから猛ラッシュが始まった。女良さんが釣ると今度は鈴木さん、同船者も目を見張る入れ食い状態。パターンをつかむと手を付けられないのが名手たるゆえん。2人のデッドヒートは納竿の12時まで続き、仲よく10枚ずつでフィニッシュとなる。



◎ハリス6号で7.7キロの大ヒラメを上げた巻田さん



▲釣りは飯岡沖の水深35メートル前後

◎profile:女良 圭佑(めら・けいすけ)。千葉県いすみ市在住。イサキ、ヒラメ、一つテンヤマダイなど外房の釣り物を得意とする。休日は大原港つる丸の仲乗りとしてお客さんをサポートする。シーガーモニター



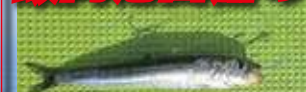
★鈴木さんは1キロ前後のヒラメをコンスタントに釣り上げていく

★2人とも道糸はシーガーPE X8も、ハリスはシーガーグランドマックスFXを使用



釣れる釣れる 釣れる釣れる 釣れる釣れる

九十九里 Challenge #62 飯岡港出船のヒラメ

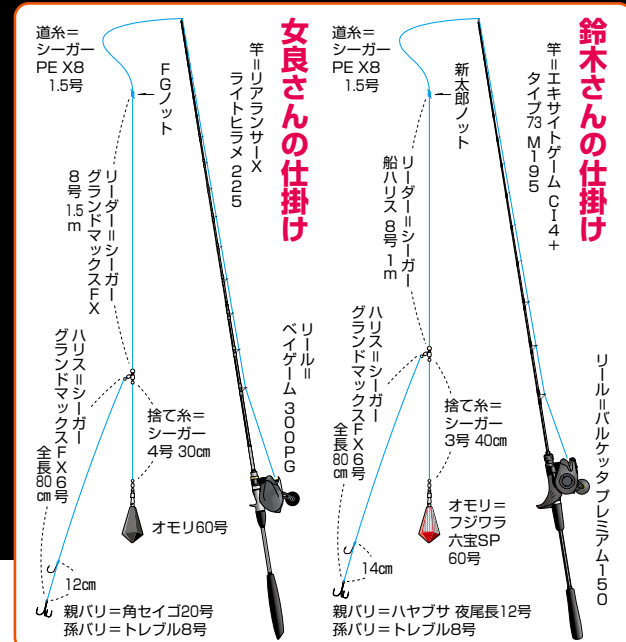


▲エサは18~20センチ前後のマイワシ

★エサを食い込むまでじっくり待ち、ヒラメを掛けた

鈴木新太郎、女良圭佑 名手2人が夏ヒラメに挑戦 2ヶタ釣りの爆釣を披露

◎例年ヒラメ戦線のスタートを飾るのは銚子~飯岡沖。今期も6月の解禁以来、まずまずの釣果を上げている。名手鈴木新太郎と女良圭佑の両氏が満を持して釣行したのは7月中旬、九十九里飯岡港からの出船だ。今期のヒラメ状況を占う2人にとっては意味ある釣行、どんな釣りをを見せてくれるか楽しみだ。



乗船したのは九十九里飯岡港の三次郎丸。梅雨の最中ながら曇り時々晴れ、ベタナギという絶好の釣り日和に恵まれた。4時半ごろに出船し、30分ほど走った飯岡沖水深35メートル前後の釣り場に到着。「潮が動いていないので、ピンポイントで狙います」と言いながら船長は投入合図を出す。2人は左舷ミヨシに並んで仕掛けを投入。オモリ60号、ライトタックルでの挑戦だ。鈴木さんによると、「ちよっとした根があるポイントですね。船が動かないので誘い方が大切になってきます」とのこと。一方、「ナギ倒れにならないことを願ってます」と女良さん。ほとんど2人にアタリがやってくるものの、食い込みが悪く合わせてもハリ掛かりしない。想像以上に潮が流れていないせいか、食い込まない、掛からないという状況が続く。そんな中、突然左舷ミヨシのほうで騒がしくなった。そこには大きく竿を曲げ、必死の形相でヤリトリする釣り人の光景。海面に上がったのは、後検量7.7キロの特大ヒラメだった。その1枚が2人に火をつけた。高めのタナを狙ったり、上下の誘いに加えたりしてなんとか食わせようとする。ようやく実を結んだのが7時前、2人同時ヒットで釣れたのはいずれも1キロ弱。それからは手を休めずに誘い